

## ☆志摩市立志摩中学校区の取組

### ◆事業概要



#### 1 中学校区の現状と課題

志摩中学校区は、志摩中学校、和具小学校、布施田小学校、片田小学校、越賀小学校で構成された校区です。校区のある志摩町では、高齢化により地場産業である真珠養殖業や遠洋漁業が衰退し、若年層が他地区に流出する傾向が強くなっています。校区には、明るく活発な子どもが多く、友だちのいいところや頑張りを認め、困っている友だちがいたら係わろうとする子どもがいる反面、友だち関係が固定化されている等、仲間づくりを進めるうえでの大きな課題があります。

ここ数年、様々な生活背景を要因として、子どもたちの自尊感情や学習意欲の低下等が表れています。そこで、志摩中学校区子ども支援ネットワーク（以下、ネットワーク）では、子どもたちが自分に自信を持ち、豊かな人間関係を築いたり、自己の将来に夢を持ち、日々の学習や家庭学習に対する意欲等を高めたりすることを目指して活動を計画しました。

#### 2 課題解決のための主な取組

##### (1) 夏休み子ども体験教室

志摩中学校区の4つの小学校で夏休み子ども体験教室を開催しました。ネットワークでは、この活動を創出していくにあたって、まず子どもの家庭環境や学習状況等の課題を出し合い、共有した上で解決のための取組を考えました。特に、教育的に不利な環境のもとにある子どもが、興味を持って参加したいと思える内容を考えました。当日は、青少年育成市民会議のメンバーや地域住民が支援をし、夏休みの宿題をする学習会とあわせて、スライム作り体験を開催しました。子どもたちは、学習時は集中し、スライム作りは思い切り楽しむといった、メリハリのある活動を行うことができました。4日間で96人の参加があり、有意義な時間となりました。



学習会の様子

取組後、ネットワーク委員は、「家で一人で過ごすことの多い子どもの居場所を作ることができた」「教育的に不利な環境のもとにある子どもに、スライム作りの案内の声かけをしたところ、『参加したい』と興味を持ち、そのことが学習会を含め、積極的な参加につながった」等の成果を実感しました。

##### (2) 人権劇～文化祭に向けて～

志摩中学校においては、10月の文化祭にむけて人権劇に取り組みました。1年生は、「伝え合えたら」をテーマに、「障がい者の人権」について考える機会としました。子どもたちは、劇を上演するに当たり、障がいがある子どもの父親の思いを台本や演技に生かしながら活動を進め、共に生活をしていくためには、何を大切にしていけばいいのかを考えました。また、人権劇の取組を通して、今までの自分の行動を振り返ったり、これから自分はどうのように行動していきたいのかを考えたりすることができました。文化祭当日は、200人以上の保護者や地域住民が鑑賞し、大きな拍手を子どもたちに送っていました。また、ネットワークでは、このような取組の継続が差別をなくしていくための実践行動力につながっていくことを確認することができました。



人権劇の様子

### ◆実践を振り返って

ネットワークでの活動を振り返り、次のような成果が明らかになりました。

- ・中学校区での子どもの情報交換から、課題解決のための取組を創出することができた。
- ・地域住民から見守られ、認められ、褒められる機会を意図的に設定した取組を進めることにより、子どもたちは大切にされているという実感を深め、自尊感情が高まった。
- ・家庭での学習習慣が定着してきた子どもが増え、学習に対する目標を持てたり、日々の学習に生き生きと取り組んだりする等、学習意欲が高まった。
- ・人権劇等の学習の成果を発表する機会を設定したことにより、子どもの表現力やコミュニケーション力を高めることができた。

今後も、学校・家庭・地域の協働を一層進め、教育的に不利な環境のもとにある子どもを取り巻く課題に即した活動内容の工夫と取組の継続を行っていきたいと考えています。